

ハンドボール競技におけるレフトバックポジションからの ミドル・ロングシュートプレー

藤本 良佑 (201211973, ハンドボール方法論)

指導教員：山田 永子, 會田 宏, 藤本 元

キーワード：男子大学生, 踏切位置, シュートタイミング, パスを受け取る位置

【目的】

ハンドボールにおける攻撃の最終目的は、シュートを決めて得点することである。攻撃における最終依存率が高いポジションはバックコートプレーヤーであり、試合で使われる多くのシュートは、ミドル・ロングシュートである。本研究は大学生男子ハンドボール競技の右利き選手による左バックコートポジションからのミドル・ロングシュートの有効なプレーについて明らかにし、コーチング現場に有用な知見を導くことを目的とした。

【方法】

本研究では、平成 27 年度関東学生ハンドボール男子春季、秋季リーグ戦の上位 4 チーム同士のセットオフenseにおける、ミドル・ロングシュートの場を研究対象とした。分析項目を以下のように設定した。

1. 第 1 局面(ボール保持前)：パスが出るまでの位置取り、パスを受け取るスピード、パスを受け取る方向
2. 第 2 局面(ボール保持中)：パスを受け取った位置、フェイント、ドリブル、歩数
3. 第 3 局面(シュート時)：ディフェンスの位置、ディフェンスとの関係、ディフェンスとの位置関係、シュート種類、跳んだ方向、シュートタイミング、上半身の使い方、踏み切り位置、シュートコース
4. プレー結果：有効(ゴール, 警告, 7m 獲得), 有効でない(ノーゴール, ブロック)

統計処理はカイ 2 乗検定と残差分析を行った。

【結果と考察】

1. プレー結果と第 3 局面の関係

プレー結果と踏切位置、シュートタイミングの間に有意な関係が見られた。有効な踏切位置は 6m ~ 9m のゴール幅で踏み切ることからゴールに近

く中央から撃つことが必要と考えられる。有効なシュートタイミングはセーブで有効でないシュートタイミングがノーマルなことからキーパーのタイミングを外すシュートが有効と考えられる。

2. 第 3 局面と第 2 局面の関係

踏切位置とパスを受け取る位置、ドリブルの有無、また、シュートタイミングとパスを受け取る位置の間に有意な関係が見られた。有効なパスを受け取る位置は 6m ~ 9m で受け取るか中央によって受け取ることから、ゴールに近く中央でパスを受け取ることから効果的な踏切位置に近づいていると考えられる。またドリブルを使用することで効果的な踏切位置に近づけると考えられる。

3. 第 2 局面と第 1 局面の関係

パスを受け取る位置とパスが出るまでの位置取りの間に有意な関係が見られた。有効なパスが出るまでの位置取りはゴールに近く中央によっていることから、効果的なパスを受け取る位置の近くにいることが必要と考えられる。

【結論】

男子大学生を対象に、プレー結果と有効なプレー方法を明らかにした。その結果は以下の通りである。

1. 有効なプレー結果に繋がった第 3 局面でのプレー方法はゴールの近くかつ中央で踏み切ること、セーブのタイミングでシュートを撃つこと。
2. 第 3 局面において有効なプレーに影響するためには、第 2 局面においてパスを受け取る位置が中央かつゴールに近くであること、ドリブルを使用すること。
3. 第 2 局面において有効なプレーに影響するためには、第 1 局面においてパスが出るまでの位置取りをゴールから離れすぎないようにすること。